

電子処方箋から始まる医療DX

2022年10月2日

電子処方箋モデル事業合同フォーラム

日本医師会 常任理事 長島公之

【本日の内容】

～ 3つの期待～

- ◆ 医療DXへの期待
- ◆ 電子処方箋への期待
- ◆ モデル事業への期待

医療DXへの期待～日本医師会が目指す医療DX

●医療DXを取り巻く背景

【医療提供体制の変化】病床機能分化により、病院完結型から地域完結型へ。

【患者像の変化】高齢化により一人の患者が複数の疾患を持ち、複数の医療機関を受診。
紙の紹介状だけでは、十分な情報共有が困難なケースの増加。

IT化

・他医療機関と情報共有が可能に（地域医療連携NW・多職種連携NW）
・IT化による効率化で負担軽減

IT化

【医療者の業務の種類・量の増加】働き方改革による解決が必要。

●「日医IT化宣言2016」公表（2016.6）

今後の日医の医療分野のIT化における取り組みの指針として公表。

医療機関が安心・安全・安価に地域医療連携に活用できる医療専用ネットワークの構築を目指す。

●日本医師会が目指す医療DX

DXとは、デジタルトランスフォーメーションの略であり、「デジタル技術やICTツールという手段が浸透して、人々の生活をより良いものへと変革させること」とされている。日本医師会が目指す医療DX、即ち、ICT化により実現すべき医療分野の変革は、業務の効率化や適切な情報連携などを進めることで、国民・患者の皆さんに、より安全で質の高い医療を提供するとともに、医療現場の負担を減らすことである。

医療DXへの期待～全国医療情報プラットフォーム

- 「オンライン資格確認」は、単に医療機関がオンラインで患者の保険資格確認を即時に行えるだけの仕組みではない。
- 医療機関がオンライン資格確認を導入することで、安心・安全に医療機関がつながる全国的なネットワークが形成されることになる。
- オンライン資格確認は、今後の日本の医療で必須となる医療DX、全国医療情報共有の基盤である「全国医療情報プラットフォーム」に発展するものであり、これは安心・安全で質の高い医療提供、かかりつけ医機能の発揮に寄与する基盤でもある。
- そのために、最終的には全ての医療機関で導入されることが望ましい。
- 患者もマイナポータルにより情報閲覧が可能になることも大きなメリットであり、医療に患者が主体的に参加し、主役になることが可能となる。

【全国医療情報プラットフォーム上で運用される仕組みや患者同意の下で共有される情報】

2022年9月現在	特定健診情報、レセプト由来の薬剤情報、 レセプト由来の診療情報（除：病名、手術情報）
2023年1月～	電子処方箋（リアルタイムの処方・調剤情報）
2023年5月～	レセプト由来の手術情報
2025年度以降	電子カルテ情報交換サービス（仮称）*

*PFを通じて電子カルテ情報の共有・交換が広く行われるようになるまでの間は、地域医療介護総合確保基金等を活用して構築された地域医療情報連携ネットワークも引き続き機能し、併存する。（自民党「医療DX令和ビジョン2030」留意事項）

電子処方箋への期待

●医療情報の情報共有のメリット

薬剤情報の共有は特にメリットが大きく、安心・安全な医療提供に資する。

●従来の対応

紙のお薬手帳による情報共有が行われてきた。

【お薬手帳の課題】

- ・持たない人、持参しない人も多い。
- ・電子版も提供されているが、あまり普及していない。

●オンライン資格確認の仕組みの活用

本人同意による薬剤情報閲覧がすでに開始されているが、レセプト由来の薬剤情報のため、タイムラグがあるのが欠点。

電子処方箋の登場

- ・ リアルタイムの情報が閲覧できるようになる。
- ・ 閲覧のみではなく、重複投薬・併用禁忌のチェックができる。

IT以外では解決は不可能であり
医療DXの中でも特に意義が大きい

モデル事業への期待

●電子処方箋運用開始に向けて

電子処方箋の利便性、実用性、有用性を患者、医療現場の両方にとって、高める必要がある。

●利便性・実用性・運用性の向上に向けて

実際に医療現場で使用してみることで、課題の把握、機能や使い勝手の改善が必要。



課題・要望の
確実な
フィードバック

そのために最も役に立つのがモデル事業

とにかく
使いやすい
仕組みに

モデル事業を円滑に実施し、最大の成果を得るためには、地域の医療関係者、住民の理解と協力が不可欠

是非、皆様のご協力をお願いいたします